

「港湾の将来に着目した課題」課題研究グループ（第1回会合報告）

グループリーダー 森 隆行

2018年度 課題テーマ「技術革新と情報活用に基づくコンテナターミナルの将来展望」

第一回会合開催

日時；2018年3月7日 14:30-17:00、

場所；阪神国際港湾株式会社社会議室

出席者；12名（登録会員13名の内、2名の欠席、赤塚代表理事の出席）

会議概要

- ・趣旨説明と今後の方針についてリーダーより説明
- ・世界のコンテナターミナルの現状と動向について阪神国際株式会社篠原様から報告
- ・米国コンテナターミナルの自動化に関するDVD（商船港運 平川様）
- ・フリーディスカッション
- ・ディスカッションのまとめ。

いろいろな意見が出されたものを要約すると、将来的に人手不足から業界の存続も危惧される。業界が存続するために、またガラパゴス化を避けるために、自動化やAIの活用を含めた将来を見据えた提言をすべきである。自動化だけではなく、ヤードプランニングなどターミナルオペレーションへのAIの活用も検討課題である。また、日本のコンテナターミナルの規模が小さいことが新技術の導入、新規投資に熱心になれない理由であることから、ターミナルオペレーターの統合も必要であろう。また、少数意見ではあるがコストの問題も取り上げるべきとの意見もあった。今後はこれらの意見を踏まえてさらなる議論を進める。

次回研究会の日程

次回研究会、6月1日（金）14:30-17:00 場所；阪神国際港湾株式会社社会議室

その他

- ① 第一回の議論を踏まて、自動化以外のAIの導入例やオペレーター統合の可能性などの検討も必要であると考えられる。
- ② コストの問題やその他雑多な意見も出たが、概略上記のような内容に集約される。